

# 『中外物価新報』の論説・雑報等一覽

——一八七六年—一八七八年——

吉川 容

『中外物価新報』は、一八七六（明治九）年二月に創刊され、一八八九（明治二二）年一月二七日に『中外商業新報』へと改題された。その後、『日本産業経済』の一期を経て、一九四六年『日本経済新聞』と改題し、今日に至っていることは周知のところであろう。

創刊当初『中外物価新報』の紙面は、大活字二行取りの柱で「東京商況」「横浜商況」「大坂商況」「西京商況」「諸県商況」「海外商況」の六欄に区分されていた。このうち、横浜・大坂・西京・諸県の各商況欄には、各地の諸相場速報と商況概況が定型定例化されて掲載されていた。情報入手の手段には電報・探訪（直接の取材）・郵送の通信・相場商況報告書の転載などが使い分けられていた。「東京商況」欄も、創刊直後の時点では、東京の諸相場の速報と商況概況のための欄であったが、次第にそうした定型定例型の記事に加えて論説・解説・報告・雑報などと分類しうるような非定型記事

が盛り込まれるようになっていった。一八八二（明治一五）年七月八日の大幅な紙面改革に際してこれらの記事の掲載場所は、「社説」欄・「雑況」欄として独立するが、それ以前は「東京商況」欄の前半に、こうした論説・解説・報告・雑報などが掲載され、東京の諸商品相場と商況概況の報道には同欄の後半部分があてられていた。「海外商況」欄でも、定型定例型の海外各地の諸相場の速報と商況概況が掲載記事の大半を占めたが、時に応じて海外市場に関連した報告・雑報の類が掲載された。

今回作成した「『中外物価新報』の論説・雑報等一覽」は、「第1表 『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覽」と「第2表 記事の内容」の二つの表からなる。第1表は、定型定例化された相場速報ならびに商況概況以外のすべての記事の標題一覽であり、第2表は、それらの記事のおよその内容を知るための要約・引用である。一部の記事については、若

千の注記も付した。第1表と第2表とは、号数(同一号に複数の対象記事がある場合にはアルファベットの記号を付加)で対照することができる。ただし、第1表に掲載した記事すべてに対して第2表の記入があるわけではない。第1表の作成にあたっては、もとの記事に標題が付けられている場合には、原則としてそれをそのまま採用したが、この時期の紙面では、標題が付けられているのは、論説・解説・報告などの一部にだけであり、論説の場合でも標題なしにいきなり本文という形の方がむしろ一般的であった。もとの記事の標題を採用した場合には「」でくくり、一覽作成にあたって作成者が付した標題には「」をつけて区別してある。

第1表への採否、すなわち定型定例化された相場速報・商況概況とするか否かの区分に際しては、「東京商況」欄の場合には、定型定例部分が「米は……」あるいは「本日は……」ではじまるという形があるので、それより前の部分はすべて選択した。東京以外の日本各地の商況欄については、ほとんどが定型定例型の記事であり、原則として選択していない。「海外商況」欄に関しては、定型定例型の商況概況と見るか、それをこえた報告と見なすべきか微妙な記事がある。そうした境界線上の記事の取捨選択には幾分主観的な部分もあることをお断りしておきたい。そうしたわけで、第1表に収録した記事の掲載場所は、大半が「東京商況」欄で、一部

が「海外商況」欄である。例外的に、「横浜商況」欄の記事と単独の欄をたてて掲載された記事がある。「東京商況」欄以外に掲載された記事については、「第2表 記事の内容」に注記をした。

これらの記事は、内容・形式などから大まかには論説・解説・報告・雑報などに分類できるが、当時の編集者はそれほど明瞭にジャンル分けを意識していたわけではない。論説記事の場合にも、論旨を理解してもらうために諸問題・諸制度の解説から書き起こし、解説と論説が融合したような記事となっていることが多いし、報告・通信・あるいは内外の他紙誌からの転載抄録(『中外物価新報』に限らず、この頃の新聞では他紙誌からの転載抄録は頻繁に行われていた)を掲載し、その末尾に編者が論評を加えるというスタイルも多い。その時々々の必要性や情報入手の方法に応じ、柔軟な編集が行われていた。紙面の組み方で見ると、「東京商況」欄のうち、論説・解説・報告・雑報などの記事に割られる紙幅は、号によってこととなり、第一面の半分程度の時もあれば、第一面だけでは足りずに第二面にまでかかることもあった。標準的なスタイルでは、「東京商況」欄の冒頭に二段弱(当時の『中外物価新報』紙面は一面五段、全四面)を使って論説ないしは解説の記事が掲載され、その後若干の雑報の記事が配され、さらに東京市場の諸相場・市況概況(先頭は必

ず米穀市況」が続いていた。各記事の区切りを示すものは文頭の○印だけで、それに続いて、見出しもなしに、いきなり本文がはじまるという形が一般的であった。

『中外物価新報』における論説について、『日本経済新聞八十年史』では、一八七七（明治一〇）年三月三十一日付第一八号に掲載された「西南戦争にひっかけて為替理論を説いた」記事（第1表の18a・18b）が「本紙における論説の初めで」あったとしており、筆者もこの認識を踏襲したことがあるが、第1表に掲載したように、第一八号に先立ち、いくつかの解説的な記事が掲載されており、そのうち一八七七（明治一〇）年一月四日付第六号（年頭号）に掲載された「外国貿易上の勝利」は、行数は三三行とやや短い、性格としては明かに論説とすべきものである。

本一覧が対象とした時期の『中外物価新報』は、創刊から一八七七（明治一〇）年末までは、毎週土曜日夜に印刷され、翌日曜日に配達される週刊新聞であり、一八七八（明治一一）年一月から週二回の発行（水曜と土曜に印刷、翌日配達）となった。

『中外物価新報』の複製には、マイクロフィルム版（ニチマイ作成）と復刻版（柏書房 一九九九年から刊行中）がある。前者の方が普及しており閲覧が容易であろうが、本一覧の対象時期について見ると、第二号、第七号、第二四号、第

四七号が欠落している。復刻版ではこれらの号も埋められている。

(1) 『日本経済新聞八十年史』（一九五六年）一五―一六頁。こうした認識となったのは、同書編纂時点で、『中外物価新報』第二号、第七号の紙面を入手し得ていなかったためと思われる。

(2) 拙稿『中外物価新報』の沿革と紙面』（『中外物価新報へ復刻版へ解説』一九九九年 柏書房）。

第1表 『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覧 (その1)

年	月	日	号数	記事の標題	行数
1876年	12月	23日	4 a	【最近の米価変動】	45
		23日	4 b	【対欧州為替相場変動の理由】	46
		29日	5	【明治九年の商況】	160
1877年	1月	4日	6	【外国貿易上の勝利】	33
		12日	7	【明治九年の商況】(5号の続き)	45
	3月	10日	15	【米穀市況解説】	42
		31日	18 a	【戦争景気について】	59
		31日	18 b	【金円相場高騰の理由】	35
	4月	14日	20	【商人は外国へ航すべし】	53
		21日	21	【イタリアにおける日本産蚕種の景況】	55
		28日	22 a	【露土戦争が我国商売に及ぼす影響】	55
		28日	22 b	【養蚕法】	50
	5月	5日	23 a	【炭硯開発の必要】	47
		5日	23 b	【牧畜業振興の必要】	39
		5日	23 c	【養蚕法】(続き)	55
		12日	24 a	【九州戦地商売の景況】	51
		12日	24 b	【養蚕法】(続き)	57
		19日	25	【九州戦地商売の景況】(続き)	48
	6月	2日	27	【露土戦争と横浜生糸相場／本年養蚕の景況】	71
		9日	28	【米価騰貴の原因】	56
		16日	29 a	【米価騰貴の原因】(続き)	33
		16日	29 b	【養蚕の景況】	51
		23日	30 a	【東京市中諸相場の高低】	76
		23日	30 b	【灯台の効用】	22
		30日	31	【銀行の開業・紙幣の増加・信憑の欠如】	75
	7月	7日	32 a	【清国人商人】	75
		7日	32 b	【支那銀行ノ模様】	69
		14日	33	【貫々料】	75
		21日	34	【洋商取引の手順】	65
		28日	35	【洋商取引の手順】(続き)	84
	8月	4日	36	【洋商取引の手順】(続き)	64
		11日	37	【洋商取引の手順】(続き)	57
		18日	38 a	【洋商取引の手順】(続き)	84
		18日	38 b	【トルコへの銃器売買】	14
		25日	39 a	【第一国立銀行の売買品受合及び海上受合】	72
		25日	39 b	【フランスにおける養蚕景況】	32
	9月	1日	40	【機械制紡績業の設立を】	86

第1表 『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覧 (その2)

年	月	日	号数	記事の標題	行数	
1877年	9月	8日	41 a	「東京商業一斑 第一正米売買の事」	47	
		8日	41 b	「絹糸景況及バートル法ノ事」	54	
	15日	42	「東京商業一斑 第一正米売買の事」(続き)	46		
	22日	43 a	「東京商業一斑 第一正米売買の事」(続き)	92		
	22日	43 b	【輸出米の景況】	29		
	29日	44 a	「東京商業一斑 第一正米売買の事」(続き)	78		
	29日	44 b	「貿易上ノ意見」	41		
	10月	6日	45 a	「東京商業一斑 隔月米売買の事」	98	
		6日	45 b	【イタリアにおける養蚕の景況】	32	
		13日	46 a	「東京商業一斑 隔月米売買の事」(続き)	93	
		13日	46 b	【本年の米作】	71	
		13日	46 c	「印度凶歉ノ景況」	68	
		20日	47 a	「東京商業一斑 隔月米売買の事」(続き)	73	
		20日	47 b	【フランス政局の動向と欧州生糸相場】	26	
		27日	48 a	「東京商業一斑 隔月米売買の事」(続き)	107	
		27日	48 b	【諸国新米の景況】	29	
		11月	2日	49 a	「東京商業一斑 酒」	65
	2日		49 b	【上海における日本産品の商況】	34	
	10日		50 a	「東京商業一斑 酒」(続き)	94	
	10日		50 b	【紐育における生糸景況】	19	
	10日		50 c	【米商会所米代格付】	40	
	17日		51	「東京商業一斑 酒」(続き)	69	
	24日		52 a	「東京商業一斑 酒」(続き)	94	
	24日		52 b	「商業雑話」	89	
	12月		1日	53	「商業雑話」	83
			8日	54	【米国の茶関税増額】	61
		15日	55 a	「東京商業一斑 油」	59	
		15日	55 b	【仏国・米国の生糸景況】	45	
		22日	56 a	「東京商業一斑 油」(続き)	35	
		22日	56 b	「支那政府ノ公債釐金ノ広告」	56	
		28日	57	【石炭油の商況】	122	
	1878年	1月	4日	58	「明治十年商況の略記」	78
			9日	59	「明治十年商況の略記」(続き)	146
12日		60 a	「明治十年商況の略記」(続き)	107		
12日		60 b	【生糸并蚕卵紙の事】	36		
16日		61 a	【明治十年海外輸入日用品の景況】	70		
16日		61 b	【生糸并蚕卵紙の事】(続き)	85		

第1表 『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覧 (その3)

年	月	日	号数	記事の標題	行数
1878年	1月	16日	61 c	【支那の凶作】	18
		19日	62 a	【苺(たばこ)質の改良】	88
		19日	62 b	【香港の米価】	17
		19日	62 c	「九州タイムス新聞石炭輸出論摘訳」	98
		23日	63 a	【商人は正利と不正利の岐路に注意すべし】	98
		23日	63 b	【藍玉商況】	20
		23日	63 c	「英国ドクトルドレッセル同行報告」首言	53
		26日	64 a	【巨大の財本を抛つべし】	57
	26日	64 b	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第1～第3	62	
	2月	2日	65 a	「銅の景況」	67
			65 b	【欧州における銅商売の景況報告】	142
		6日	66 a	【洋銀は無類の贅物なり】	83
			66 b	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第4～第8	79
		9日	67 a	【洋銀は無類の贅物】(続き)	82
			67 b	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第9～第13	72
		13日	68 a	【明治十年十二月各港輸出入月表】	106
		13日	68 b	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第14～第17	63
		13日	68 c	【広東で米関税免除】	7
		16日	69 a	「ブローカル(仲買人)の事」	61
		16日	69 b	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第18～第20	78
		16日	69 c	【マクマホン氏巴里万国博覧会場を視察】	40
		20日	70 a	「輸出茶の説」	75
		20日	70 b	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第21～第22	101
		20日	70 c	【絹織物の賈造】	33
		23日	71 a	「輸出茶の説」(続き)	80
		23日	71 b	【上海の正月】	17
		23日	71 c	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第23～第26	77
		27日	72 a	「支配人手代の事」	80
		27日	72 b	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第27～第30	82
	27日	72 c	【支那内地へ造幣所ヲ設立スルノ議】	50	
	3月	2日	73 a	【支那地方の凶荒の我が国農商への影響】	72
			73 b	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第31～第35	91
		6日	74 a	「洋銀相場騰貴の原因」	92
6日		74 b	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第36～第42	79	
6日		74 c	「倫敦米商仲買フラッセル社中一月一日ノ報告抄訳」	37	
9日		75 a	「洋銀相場騰貴の原因」(続き)	110	
9日	75 b	【上海洋銀相場】	8		

第1表 『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覧 (その4)

年	月	日	号数	記事の標題	行数		
1878年	3月	9日	75 c	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第43～第46	59		
		9日	75 d	「倫敦レード社中生糸商況報告」1月1日	58		
		9日	75 e	「紐育リチャードソン社中ノ生糸商況報告抄訳」	32		
			13日	76 a	【為換打歩を自然の高低に任すべし】	83	
			13日	76 b	【上海の洋銀取引ほか】	28	
			13日	76 c	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第47～第51	96	
			16日	77 a	「資本の使用」	76	
			16日	77 b	【支那米相場】	41	
			16日	77 c	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第52～第56	81	
			16日	77 d	「倫敦米商仲買フラッセル社中報告」	31	
			20日	78 a	【パリへの輸出手續】	85	
			20日	78 b	【香港米相場】	4	
			20日	78 c	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第57～第61	97	
			23日	79 a	「英魯戦端を開くに及で我国貿易市場の景況如何」	85	
			23日	79 b	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第62～第65	71	
			27日	80 a	「支配人手代の事」(第72号の続き)	68	
			27日	80 b	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第66～第68	61	
			30日	81 a	「東京商業一斑 塩売買の事」	68	
			30日	81 b	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第69～第70	71	
		4月		6日	82 a	「問屋及仲買の事(八十号の続き)」	54
				6日	82 b	【イタリア蚕種商況】	32
				10日	83 a	【米国の生糸輸入関税賦課論議に決着】	69
				10日	83 b	【小麦の輸出】	5
				10日	83 c	【横浜貿易の衰微】	6
				10日	83 d	【米国船運賃の高値】	3
				13日	84 a	【兵庫・神戸・大坂の商況】	88
				13日	84 b	「米国紐育通信」3月8日発	14
				13日	84 c	【フランスにおける生糸景況】	21
				17日	85	【兵庫・神戸・大坂の商況】(続き)	80
				20日	86 a	【支那茶粗悪に赴く】	70
				20日	86 b	【香港米相場騰貴】	8
				20日	86 c	【米の輸出高】	12
				24日	87 a	【親船の船頭】	93
24日	87 b			【電信略号の使用】	13		
5月		27日	88	【野蒜築港計画】	100		
		1日	89	【野蒜築港計画】(続き)	192		
		4日	90 a	【新潟港修築計画】	178		

第1表 『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覧 (その5)

年	月	日	号数	記事の標題	行数
1878年	5月	4日	90 b	「洋銀」	31
		8日	91 a	【蚕種製造売買の自由化】	87
		8日	91 b	【阿賀川・新潟運河】	20
		8日	91 c	【最近の米価騰貴】	26
		11日	92	「記憶を善くせざれば敏捷の商売を為す能はず」	70
		15日	93	【海上船舶保険会社と造船資本の融通】	79
		18日	94 a	【内国製品の使用】	61
		18日	94 b	「倫敦米商報告」3月14日	43
		22日	95 a	【東京株式取引所】	144
		22日	95 b	【海外で米価高騰】	6
		25日	96 a	【公債・株式の利子歩合】	87
		25日	96 b	【商業学校の設立】	80
		25日	96 c	「倫敦米商報告」3月14日(続き)	56
		29日	97 a	「貨幣の変革」	105
		29日	97 b	【上海の石炭景況】	21
	6月	1日	98 a	「日本茶の景況」	88
		1日	98 b	【支那の養蚕景況】	8
		1日	98 c	【上海の石炭景況】(続き)	14
		1日	98 d	「一八七七年商況略説」	35
		5日	99	【貨幣の変革再論】	105
		8日	100 a	【我国製糸の進歩／本年内外の蚕況】	123
		8日	100 b	【支那の米況】	2
		8日	100 c	【輸出米高】	6
		8日	100 d	【当今の米況】	16
		12日	101	【貨幣の変革再々論】	144
		15日	102 a	「社会信憑の顕微」	97
		15日	102 b	「一八七七年商況略説」(98号の続き)	41
		19日	103 a	【本年新小麦の景況】	82
		19日	103 b	【北越地方の米穀景況】	27
		19日	103 c	【イタリアにおける日本産蚕種紙の景況】	43
		19日	103 d	「一八七七年商況略説」(続き)	32
		22日	104 a	【欧州小麦の景況】	103
		22日	104 b	【上州における養蚕景況】	17
		22日	104 c	【イタリアにおける日本産蚕種紙の景況】(続き)	15
		26日	105 a	【蚕種製造売買の自由化・再論】	92
		26日	105 b	【筑後肥前の米況など】	5
		26日	105 c	【本年の生糸景況】	47

第1表 『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覧 (その6)

年	月	日	号数	記事の標題	行数
1878年	6月	29日	106	「国立銀行」	124
	7月	3日	107 a	【商業の進路】	84
		3日	107 b	【支那の新糸市況】	9
		6日	108 a	【少年子弟の心得るべき要件】	80
		6日	108 b	【福島近辺養蚕の景況】	26
		6日	108 c	「紐育生糸商況報告記」	40
		10日	109	【米価の騰貴】	131
		13日	110	【イタリアにおける蚕紙・養蚕の景況】	96
		17日	111	【商法会議所】	82
		20日	112	【商法会議所】(続き)	74
		24日	113 a	【支那要地の商業事情】	107
		24日	113 b	【パリへの輸出手続】(78号の続き)	37
		27日	114	【支那要地の商業事情】(続き)	81
		31日	115 a	【上海の錢莊】	85
		31日	115 b	【東京商法会議所の議事掲載告知】	4
	8月	3日	116 a	【本年6月各港輸出入表】	66
		3日	116 b	【東京商法会議所、第一集会を開催】	19
		3日	116 c	「東京商法会議所要件録 第一総会」	68
		7日	117 a	【本年6月各港輸出入表】(続き)	111
		7日	117 b	「東京商法会議所要件録 第一総会」(続き)	42
		10日	118 a	【イタリアにおける養蚕の景況】	49
		10日	118 b	【上海の錢莊】(続き)	38
		14日	119 a	【ラマツリの勸め】	60
		14日	119 b	【漢口の茶商況】	20
		14日	119 c	【上海の錢莊】(続き)	64
		17日	120	「稲作の景況」	120
		21日	121 a	【名はなくして保険会社の実を行なうものあり】	89
		21日	121 b	【商船の改良法】	35
		21日	121 c	【近畿の米作況】	5
		24日	122 a	【支那における石炭開鑿】	112
		24日	122 b	【竹橋砲兵營所の騒乱】	7
		28日	123 a	【イタリアの養蚕景況】	73
		28日	123 b	【フランスにおける日本提糸の景況】	20
		28日	123 c	【岩代福島米作況】	28
		28日	123 d	【羽後土崎秋田能代米作況】	16
		31日	124	「各国綿の進歩」	100
	9月	4日	125 a	【貫々料の廃止】	83

第1表 『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覧 (その7)

年	月	日	号数	記事の標題	行数
1878年	9月	4日	125 b	【運賃の高下】	41
		7日	126 a	「貫々料の廃止」	69
		7日	126 b	「東京商法会議所要件録 第二臨時会」	73
		11日	127 a	「貫々料の廃止」(続き)	86
		11日	127 b	【金録公債証書の取引開始】	3
		11日	127 c	「東京商法会議所要件録 第二臨時会」(続き)	84
		14日	128 a	【金録公債の売買開始に寄せて】	128
		14日	128 b	「東京商法会議所要件録 第二臨時会」(続き)	86
		18日	129 a	「殖産資金」	87
		18日	129 b	「東京商法会議所要件録 第二臨時会」(続き)	114
		21日	130 a	【フランスの関税】	119
		21日	130 b	【大雨による米作柄への影響】	28
		21日	130 c	【第一国立銀行等の株式売買】	5
		21日	130 d	「東京商法会議所要件録 第二臨時会」(続き)	34
		25日	131 a	「殖産資金」(続き)	76
		25日	131 b	「東京商法会議所要件録 第三臨時会」	111
		28日	132 a	「殖産資金」(続き)	111
		28日	132 b	「東京商法会議所要件録 第三臨時会」(続き)	113
10月	2日		133 a	【使用人褒状制度の勧め】	86
	2日		133 b	「東京商法会議所要件録 第三臨時会」(続き)	100
	5日		134 a	「悉徳尼(シドニー)府略記」	86
	5日		134 b	「東京商法会議所要件録 第一定式集会」	92
	9日		135 a	【明治十年各港輸出入年表の分析】	72
	9日		135 b	「東京商法会議所要件録」	76
	12日		136 a	【明治十年各港輸出入年表の分析】(続き)	113
	12日		136 b	「東京商法会議所要件録 第二定式集会」	70
	16日		137	【欧州における養蚕収獲の景況】	94
	19日		138 a	「銀行と商売と相待て商事を經營するは何の時に在る乎」	80
	19日		138 b	「岩代福島県下の景況」	27
	23日		139 a	【天津商業案内】	94
	23日		139 b	【八月中各港輸出入表の輸出入額】	8
	26日		140 a	【天津商業案内】(続き)	93
	26日		140 b	【為替相場の変動】	22
	30日		141 a	【洋銀相場の混乱】	71
	30日		141 b	【陸奥三本木の養蚕】	27
	30日		141 c	【海外電信料改定】	6

第1表 『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覧 (その8)

年	月	日	号数	記事の標題	行数
1878年	11月	2日	142	「日本殖産の現状」	155
		6日	143	「日本殖産の現状」(続き)	115
		11日	144	「日本殖産の現状」(続き)	76
		13日	145	【外資移入の問題】	109
		16日	146 a	【米価騰貴の理由】	116
		16日	146 b	「東京商法会議所要件録 第三定式集会」	69
		20日	147 a	【米の輸出増進策】	101
		20日	147 b	「東京商法会議所要件録 第三定式集会」(続き)	66
		27日	148	【我が銀行者の形状に就て】	114
		30日	149	【商標条例について】	63
12月	4日	150	【洋銀騰貴について】	100	
	7日	151 a	【東京における操綿取引の景状】	82	
	7日	151 b	「東京商法会議所要件録 第三臨時会」	114	
	11日	152 a	【貸倉会社について】	104	
	11日	152 b	「東京商法会議所要件録 第三臨時会」(続き)	114	
	14日	153 a	【益田孝・横浜生糸貿易報告】	100	
	14日	153 b	「東京商法会議所要件録 第三臨時会」(続き)	88	
	14日	153 c	【米国南部での養蚕業】	16	
	18日	154 a	【益田孝・横浜生糸貿易報告】(続き)	103	
	18日	154 b	「東京商法会議所要件録 第三臨時会」(続き)	75	
	21日	155 a	「読報知新聞」	177	
	21日	155 b	「東京商法会議所要件録 第三臨時会」(続き)	91	
	21日	155 c	【石炭油積載船の到着】	5	
	25日	156 a	【益田孝・横浜生糸貿易報告】(続き)	119	
	25日	156 b	「東京商法会議所要件録 第三臨時会」(続き)	50	
	28日	157	【府下歳晩の景況】	82	

- 注) 1. 本表は、定型定例化された相場速報・市況概況以外のすべての記事の標題一覧である。
2. 記事に標題がある場合には、原則としてそのまま採用し「 」でくくった。ない場合には作成者が標題をつけ【 】でくくった。
3. 号数欄のアルファベットは、同一号に複数の対象記事がある場合に、区別のために作成者が付したものである。
4. この時期の『中外物価新報』紙面は、20字×37行×5段が標準の組方である。変則的な組方や図版がある場合には、標準の組方での行数に換算した。

第2表 記事の内容 (その1)

号数	内 容
4 a	【最近の米価変動】 ここ一週間で米価が顕著に騰貴しているが、その要因として、租税上納のための売米集中が米価下落をまねき農家経済に打撃を与えることを憂慮した政府が救済策を展開していることが考えられる、と指摘。
4 b	【対欧州為替相場変動の理由】 対欧州為替相場変動の理由を探訪。為替相場変動が輸出入取引に及ぼす影響を説明。〔2面「横浜商況」欄に掲載〕
5	【明治九年の商況】 《商売上緊要ノ部分ヲ占メタル物品ニ就キ吾輩ノ見聞シ得タル一年間ノ成績》を弁す。
6	【外国貿易上の勝利】 《昨年ハ府下一般ニ不景氣ヲ唱へ》ているが《吾輩ノ考察スル処ハ大イニ之ト反シ》ている。《一体同年ハ外国トノ貿易上非常ニ勝利ヲ得テ武上信奥其他蚕種糸製出ノ国々へ金ノ落シハ莫大ノコトニテ》、しかも従来とは異なり《昨年ノ入金ハ真ノ利潤ヲ加エタルモノ》であった、と指摘。
15	【米穀市況解説】 2月末よりの米価下落の理由を解説。さらに、米の外国への輸出が増えつつあることに言及。
18 a	【戦争景気について】 西南戦争による戦争景気に浮かれることを警告。
18 b	【金円相場高騰の理由】 金円高騰を金銀相場変動の仕組みから説明。その背景にある貿易不均衡解消のため輸出物品の増加に務める必要を説く。
20	【商人は外国へ航すべし】 対外貿易が入超傾向にある。この不均衡解消のため日本産品の輸出増進が急務であるが、それには、商人が積極的に海外へ渡航し、彼の地の風俗嗜好や景況を探訪することが《商業上の一大緊要にして一日も忽にすべから》ざることである。《假令我国物産をして漸次盛大に至らしめ諸職工が勉強して製作物を興すとも商人の其中間に立て売弘むる者なき時は決して我国の富有は望み難し》。
21	【イタリアにおける日本産蚕種の景況】 《伊太利美蘭府在留某より三月一日発の来信中昨年我国より輸出せし蚕卵種の景況を詳細にし其他養蚕家を始め糸商売の為め裨益ある事勦からざる故節略して読者の參觀に供す》。
22 a	【露土戦争が我国商売に及ぼす影響】 戦争が欧州各国に波及した場合には、生糸・茶などの需要減少・価格低下、輸入唐糸金巾・毛織物などへの需要増・価格高騰が予想される。日本からの輸出品では米麦とりわけ小麦の高騰が予想される。
22 b	【養蚕法】 横浜ガゼット新聞抄訳。〔4面掲載〕
23 a	【炭鉱開発の必要】 上海では石炭売買が盛んであるが、日本炭のシェアは小さい。我が国の豊富な石炭資源を早急に開発することが望まれる。鉱業開発

第2表 記事の内容 (その2)

号数	内 容
	が進まぬ事情として、一般に《我国近年諸般進歩の勢ひ》は驚くべきものがあるがそれは《政事上学問上等》に偏し《自営活業の道》が遅れていると述べ、その背景には工商を卑賤とする観念が残っていることや、資本が続かないことがあるが、《一体我国の人情たる概して言へば事業を興起するの思慮に乏しく眼前の利益を見るに鋭にして永遠の益を謀るに疎く且規模狭隘にして耐忍勉強の気力薄く邂逅一事業を起すも一朝困難に遇ふ時は忽ち挫折して再び挽回するの精心なき》と分析。
23 b	【牧畜業振興の必要】 米国から英国への食肉輸送技術が開発され、近頃盛んに輸出がなされている。翻って日本を見ると《近年肉食大に行わるれど未だ牧畜の業開けず》、このままでは《肉食の供給欠乏して価も亦騰貴する》事態を招き《米国より我国へ輸入する事なしとも言ひ難し》。かくしてまた輸入品を増やすことのないよう、日本国内での牧畜振興が急務であると主張。
24 a	「九州戦地商売の景況」 九州中第一の都府であった熊本商業は壊滅的打撃をうけており再建は容易ではないと思われると指摘。
25	「九州戦地商売の景況」(続き) 熊本周辺の農村地域が受けた打撃は市街地ほどに壊滅的ではないこと。また戦乱の影響による熊本近辺での米価騰貴を予想したが、現実には騰貴は見られなかった。これは戦乱により他地域への輸送が困難となったためと考えられると分析。
27	【露土戦争と横浜生糸相場/本年養蚕の景況】 露土戦争の影響で生糸価格は下落するであろうとの予測(22号)に反し騰貴をしている。それは、欧州ならびに「支那」地方の天候不順を見込んだ投機筋の思わく買いによるものである。後段では我国今年の養蚕景況がまずまずとの見込みを述べ、併せて粗製濫造の弊を戒める。
28	【米価騰貴の原因】 米価騰貴の原因は《第一西南の戦争第二は今春中政府諸県下に於て大石数御買上有りしに因なり》とし。西南戦争の影響として、蒸気船が軍務に従事したため米穀回漕が滞っていることと、戦争関連の米穀需要が少なくとも30万石程度発生したことが大きいと指摘。
29 a	【米価騰貴の原因】(続き) 昨年末からの政府買上げ米をおおよそ30万石と推測。前回指摘の要因と合わせて市場では少なくとも100万石の供給減となり米価が騰貴していると分析。
29 b	【養蚕の景況】 上武・岩代・信州の3地方からの養蚕景況を報告。蚕病の風説は全くの誤りであり、欧州では露土戦争拡大も懸念され、生産過剰とならぬよう注意が必要と指摘。
30 b	【灯台の効用】 西南戦争への蒸気船の動員により、通商運輸で日本形船が

第2表 記事の内容 (その3)

号数	内	容
		勢いを盛り返したが、その輸送速度が向上し、難船も減少している。その第一の要因は灯台設置にある、と指摘。
31	【銀行の開業・紙幣の増加・信憑の欠如】	銀行開業状況の一覧(第二十国立銀行まで)を掲げ、銀行開業による紙幣増加量を試算。《此紙幣の増殖に因て貸借利足の割合は下廉に至り其抵当と為る可き動産不動産の価格を増し従て諸工業も興起す可き道理なれども如何せん我国には信憑(クレジット)と云ふもの更になく物品と通貨と並ひ動かず故に活動の流通を失ひ銀行は借人あるも信憑なければ迂闊に貸出す能はず遂に借人の少きに困しみ工商は必然有益の事業あるも信憑なきを以て借り得ること能はず亦貸人少きに苦しむ》という現状を指摘。《通貨の増加と共に交際上信憑と云ふ間接の媒介を増加して此弊を消滅》すべきことを主張。
32 a	【清国人商人】	清国人商人は《冗費を制するの厳なると營業に勉勵するの厚きとに》より商権を着々拡大している。一方で機を察するに敏で大商事の決断力にも富んでいる。また《商売上契約の正実にして信義を重んじ……無形の信用厚きを以て其取引も甚容易なり》。《如此商売上の信任厚き故貿易上の権利自ら伸暢し我開港場の商人が外国人と取引する形状とは雲壤の差違あり》。《清商の長枝ある一々枚挙に遑あらず我商人は概ね彼を輕侮すれども我輩の見る所を以てすれば後世懼るべき者は遠く欧米人にあらずして近き清国人に在らんとす》。
32 b	「支那銀行ノ模様」	上海在留英国領事より北京駐在英國公使への上海貿易報告の一部。ヘラルドより抄訳。〔4面掲載〕
33	【貫々料】	横浜での取引慣行となっている欧米人商人に雇用された「支那人」番頭に対する「貫々料」支払の実態を紹介し、その廃絶を主張。
34	【洋商取引の手順】	《欧米商人の商売する形状を記し我が商売の新に彼と取引を為す者の一助に供し併せて信憑の欠く可からざるを開道せんとす》る連載の第1回。欧米商人の營業を一見すると巨万の財本を有しそれを銀行に預けて売買を行っているように見えるが、それは誤解であって、彼らは銀行からの信憑(クレジット)を得て金融を受け巨額の商売を行っているのであると指摘。欧米商人が外国物品を日本へ輸入する手続を具体的に紹介し、与信制度を解説。
35	【洋商取引の手順】(続き)	欧米の「船荷物送り状」と日本の送り状とを紹介。〔ここで紹介した「送り状」は、「ヒルオプレーティング」ではなく、「荷物船積証書」と訳すべきものであったと38号で訂正。〕
36	【洋商取引の手順】(続き)	日本の送り状が荷為替を取組もうとするときに如何に不都合であるかを解説。

第2表 記事の内容 (その4)

号数	内 容
37	【洋商取引の手順】(続き) 「海上受合」(海上保険)制度の解説。
38 a	【洋商取引の手順】(続き) 欧米商人が日本から産物を輸出する場合の手順を解説。後段では、我国では、商人と銀行の間に信憑を重んずる関係が成立しておらず、そのことが商業が振わず物産の流通を妨げる一大弊事となっていると指摘。
38 b	【トルコへの銃器売買】 露土戦争に際して米国がトルコからの銃器注文に安値で応えたことを紹介。
39 a	【第一国立銀行の売買品受合及び海上受合】 《本新報第三十四号以来欧米商人の営業に付実際取引の大体を反復記述し銀行と商売とは其営業上必ず密着せざるを得ざるものなることを明示せり第一国立銀行にては已に此に注視する所ありて売買品受合及海上受合の規則を創定して実際営業に着手せり此売買品受合たるや世人或は其名義上より速了し一種の危険受合と看做すものもあるべけれど決して然らず恰も吾輩が数回に論述せし所の他方に於て物品買入を為す金融を受合ふ事にして商売の便益は言ふ迄もなく銀行の本業とも謂ふ可き緊要の事柄に付今其大意を左に記して未だ此挙あるを知らざる諸君に報じ併せて言ふ所あらん》と両規則の概略を紹介。後者の海上受合については、《尤海上の危険受合を銀行者の取扱ふは少しく穩当ならざる所なきにあらざれど該銀行は万々止を得ざるに出たることなる可しと吾輩は臆測す》と評したうえで、《世の有志者資本金を募集し一日も早く海上受合会社を創立》せられんことを願ひ、さらに、各地の銀行が今回の第一国立銀行の挙にならない商売と密着した営業を行うことを望んでいる。
39 b	【フランスにおける養蚕景況】 《仏国馬耳塞(マルセーユ)に留某ヨリ本年六月二十七日発の書翰を得たれば左に抄録》。
40	【機械制紡績業の設立を】 香港新聞がインドにおける綿業の発展、支那における近代的紡績業起業の企てを報じていることを紹介。日本においても、綿を輸出し大量の綿糸を輸入している現状を挽回するために、近代的な機械制紡績業の導入が急務であると主張。
41 a	「東京商業一斑 第一正米売買の事」 《御一新以来我国の商業も漸次面目を改め新たに商業に志すものも日一日より多し。然れども我国土農工商全く社会を異にせし故遽に方向を立つるも土地の慣習と実際の順序を熟知せざるを以て或は時機に疎く或は他の欺騙に陥りて資本を失う者枚挙に遑あらず。実に慨嘆に堪えざるなり因て今般東京諸商取扱の順序より駈引の實際に至る迄吾輩力を究めて探訪し本新報の一隅を填めて他国の商家に東京の実況を報道し併せて新規営業者の参勤に供せんとす》。

第2表 記事の内容 (その5)

号数	内 容
41 b	「絹糸景況及バストール法ノ事」 絹糸相場新聞 (6月30日刊行) 抄訳。〔バストール法は顕微鏡を使った蚕種精選法。4面掲載〕
43 b	【輸出米の景況】 「支那」南部および印度シャムサイゴン地方の凶作を報じて、《……之を觀れば支那印度とも早晩我國の米を仰がざるを得ず然るときは我國の米価も決して静穩なる能はず従前は唯内地の豊凶を卜して作割を推測り相場の駆引を為すを以て満足したれど本年は決して斯の如き陝隘の事にては米商を以て贏利を得んことは難しかる可し最早本年内地の作割は銘々粗憶測する所なれど海外の景況は措て問ふ者少なし米商たる者は從來の陋習を破り広く支那印度の景況に注視し時機を投じて鋭敏の駆引を為し空しく中間の支那人或は歐米人に利益を得せしむることなかれ」と米穀商人の注意を喚起。〔米の輸出については米価市況概況の中でこれまでに数度報じている。〕
44 b	「貿易上ノ意見」 龍動エコノミスト (7月21日刊行) 抄訳。欧州での小麦の高騰。その原因と影響。〔4面掲載〕
45 b	【イタリアにおける養蚕の景況】 《伊太利在留の某より来書中に本年養蚕収穫の公布及景況を記したるものを得たり左に摘録す》
46 b	【本年の米作】 今年の米作がまずまずの豊作であること。余裕の米を輸出に向けられることは、「支那」・印度などの凶作に比して大変幸福なことである。ただ一つ懸念されるのは、米商などによる買入が円滑に進まず米価が低落して農家が困難に陥ることであると指摘。
46 c	「印度凶歉ノ景況」 倫敦エコノミスト (8月18日) 抄訳。〔4面掲載〕
49 b	【上海における日本産品の商況】 《支那上海在留の某商が此程帰朝せしに彼地にて我国産の商況を聞き伝ふる》。〔三井物産の上海支店設立準備のために上海に派遣されていた上田安三郎が、10月末から11月始めにかけて一時帰国している。この記事は同人からの聞取りによるものであろう。〕
50 b	【紐育における生糸景況】 《在紐育某より該地生糸の景況九月三十日出の通信を得たれば左に節録す》。
50 c	【米商会所米代格付】 兜町蠟殻町両米商会所の明治11年1月限りよりの米代格付が決定。その概略。
52 b	「商業雑話」 これからの商人が心掛るべき事柄。外国の事情に通じ「物産運転」の形状を知る必要を説く。
53	「商業雑話」 外国商人との取引が不平等となっている実情を指摘し、その弊をただすべきことを主張。
54	【米国の茶関税増額】 米国で茶への関税増額の動きがあることを報じ、も

第2表 記事の内容 (その6)

号数	内 容
	しそれが実現すれば日本の茶業にとっては不利な条件となるが、品質改良などでそれを乗り越える努力が必要と主張。
55 b	【仏国・米国の生糸景況】 ヘラルド新聞より抄訳。〔4面掲載〕
56 b	「支那政府ノ公債釀金ノ広告」 ガゼット新聞抄訳。〔4面掲載〕
57	【石炭油の商況】 石炭油の輸入高が急増していること、すでに日用必需の品となりつつあるので今後も輸入高は増加するであろうことを指摘。国内では信越地方に石油資源があることを紹介し《有為の人奮発し此事業を興起せられんを切に》希望。石炭油を輸入する際の価格計算も掲載。
60 b	【生糸并蚕卵紙の事】 《本月五日のジャパン、タイムズ新聞に「日本の生糸製造者ハ何故ニ伊太利ニ於テ極上の日本糸ヲ産出セシムルヤ」との問題を掲げて我が生糸并蚕卵紙の事を細論せし条あり其論理中吾輩と意見を異にするものなきにあらざれど大に見る可きものありし故《其要領を節録して次に吾輩の意見を陳せん」とす》。
61 a	【明治十年海外輸入日用品の景況】 「明治十年商況の略記」を補足。
61 c	【支那の凶作】 香港新聞(12月13日)抄訳。〔4面掲載〕
62 a	【苺(たばこ)質の改良】 苺(たばこ)質の改良をはかり、欧州への輸出増大を図るべしと主張。
62 b	【香港の米価】 香港の米価相場の速報と、それに関わりのある国内の下米格高ものの相場を報道。
63 c	「英国ドクトルドレッセル同行報告」首言 ロンドンで貿易販売の要路にあるドレッセルなる人物が行なった日本産品の調査旅行に同行した内務省雇員坂田春雄の報告。農産物・工芸品など日本各地の様々な産品に対し欧米市場への輸出商品としての適否という視点からドレッセルが下した評価を紹介する連載の第1回。〔4面に独立欄で掲載。以後も3面ないしは4面に掲載。〕
64 a	【巨大の財本を抛つべし】 我国の産物が欧米の産物に圧倒されている原因として《一時に巨額の財本を抛つことを懼れざる胆力》に欠けることを指摘。《欧米人民の事業を企興するを見よ其規模の大なる十分の財本を抛ち遠大の利益を図るを以て生ずる所の物産は必ず廉価にして得る所の利益も亦大なり》。《財本に全力を尽すの要点を知らず此形容に甘んじ安閑座視する時は貿易の権衡を得る能はざる而已ならず天賦の富は漸次退縮し竟に貧国の称を招くに至らん》。
64 b	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第1~第3 1 英国「ロンドス」会社に属して商業を成すの事/2 「ロンドス会社の商業」/3 起立工商会社に於て製

第2表 記事の内容 (その7)

号数	内 容
	造する堆朱器の評。
65 b	【欧州における銅商売の景況報告】 倫敦 (12月6日発) 報告。〔4面掲載〕
66 a	【洋銀は無類の贅物なり】 貿易に洋銀を用いることにより生ずる弊害を指摘。《洋銀を吾が市場より擠黜し換るに我が貿易銀を以てす》べきことを主張。
66 b	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第4～第8 4 同社描画漆器の評/5 同会社の古物品を買上ぐる事/6 宮川長次郎小細工類の評/7 鑄銅器の評 銅工東京府下鈴木長吉/8 日本産生薑を輸出す可き事。
67 b	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第9～第13 9 淡路陶器/10 製塩開業の事/11 三田陶器/12 有馬竹細工/13 但馬豊岡麦稈細工。
68 a	【明治十年十二月各港輸出入月表】 関税局印行の明治十年十二月各港輸出入月表の要録と論評。
68 b	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第14～第17 14 麦稈の組紐を輸出す可き事/15 友染及び藍紋染の木綿を買入る事/16 但馬出石陶器/17 大坂木細工欄間製造に輸出の目的有る事。
68 c	【広東で米関税免除】 香港新聞 (1月30日) 抄訳。広東の税官が向う1ヵ年米の輸出入に厘銀税を課さずとの布告を行ったとの報道を紹介。〔4面掲載〕
69 a	「ブローカル (仲買人) の事」 欧州においては、信憑と身代があり自己の売買は行わない仲買の存在によって商売取引が円滑に行われていると述べ、我国においてもこうした仲買の存在が望まれると主張。
69 b	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第18～第20 18 大坂及び堺県毯子 (だんつう) 織の評/19 英国坐氈 (しきもの) 製造の事/20 日本室内欧州産の地氈 (カーペット) 及び食器等を用るは甚だ不適当なる事。
69 c	【マクマホン氏巴里万国博覧会場を視察】 倫敦タイムス (12月23日) 抄訳。日本出品の評判等。〔4面掲載〕
70 a	「輸出茶の説」 日本茶の輸出にあたっては、無色茶の改良に努力をすべきであり、紅茶製造に力を注ごうとするのは無益であるとのジャパントイムス紙掲載記事 (東京日日新聞1851号に全文を訳出) を、実際に疎き空論と批判。
70 b	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第21～第22 21 大坂及び堺県に於て鉄製物品の輸出を謀る事/22 鳥毛の輸出を興す可き事。
70 c	【絹織物の賈造】 倫敦タイムス新聞抄訳。《近来絹ノ織物ニ他物ヲ混合スルノ悪弊遍ク世上ニ流行シ不幸ニモ絹糸ノ商業ニ損害ヲ生ズル勢アリ》。〔4面掲載〕

第2表 記事の内容 (その8)

号数	内 容
71 b	【上海の正月】 2日に「支那正月」元旦を迎えた商家の模様。12日発の通信による。
71 c	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第23～第26 23 奈良春日社及び東大寺旧蹟の事/24 日本酒の税格を減ず可き事/25 紀州及び大和産陶器の評/26 紀州黒江村産漆器。
72 b	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第27～第30 27 高野山の紀事/28 紀州産蜜柑を輸送す可き事/29 和歌山に於て内国通用常製の衣厨(たんす)を注文したる事/30 輸出の物産客地の売価に随て税官の心得を要する事。
72 c	「支那内地へ造幣所ヲ設立スルノ議」 華洋通聞抄訳。〔4面掲載〕
73 b	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第31～第35 31 物産を起すは多年の忍耐力を要する事/32 凍瓊(カンテン) 脂輸出の事/33 玩弄品の輸出を謀る事/34 西京陶器工の評論 錦雲軒/35 丹山青海。
74 b	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第36～第42 36 雲林院文蔵/37 帯山与兵衛錦光山惣兵衛/38 楽焼 楽吉左衛門/39 高橋道八/40 幹山伝七/41 清水六兵衛/42 真清水蔵六。
74 c	「倫敦米商仲買フラッセル社中一月一日ノ報告抄訳」 昨年日本米輸入状況と今後の課題。〔4面掲載〕
75 b	【上海洋銀相場】 2月27日上海発の通信による。洋銀の騰貴を伝え、印度地方での米穀買入のための送銀が原因と報ずる。
75 c	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第43～第46 43 沢村東左(清水六兵衛門人)/44 香齋治平/45 七宝焼の評 並川清之/46 銅器の評論 秦蔵六 金谷五郎三郎 篠山篤行 河原林秀国。
75 d	「倫敦レード社中生糸商況報告」1月1日 昨年の取引回顧。〔4面掲載〕
75 e	「紐育リチャードソン社中ノ生糸商況報告抄訳」 1月25日。昨年の取引回顧。〔4面掲載〕
76 a	【為換打歩を自然の高低に任すべし】 為替打歩が固定されている事による弊害を述べ、《為替打歩を自然の昂低に任すは銀行及商売両得の術にして一日も忽にすべからず》と主張。
76 b	【上海の洋銀取引ほか】 前号掲載の上海よりの通信の続き。
76 c	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第47～第51 47 金銀器 河村八十米・猩猩堂紹美・中川浄益・金谷五郎三郎・駒井乙次郎/48 刺繍及び染色配合の評/49 画屏風/50 陶磁板製造の事/51 鉄に金銀を嵌入したる製造物。

第2表 記事の内容 (その9)

号数	内 容
77 a	「資本の使用」 《生産資本》と《不生産資本》の区別を論じ、《世の金主金満家》に生産の増加につながる商工業への投融資を促す。
77 b	【支那米相場】 昨今の米相場は、「支那」における米相場と密接に関連して動いているのでその動静を知ることが重要である。《幸ひ本社に於ては支那との取引日を逐て深密に至り該地出張員よりの報告も至て詳かなれば假令本社の取引上他の漏聞を厭ふものと雖吾輩記者は務めて秘訣を摘出して読者諸君の参考に供せんとす是吾輩記者の責任にして本社の都合を顧るに違あらざるなり請ふ読者諸君も吾輩記する所のものを以て普通の相場状と看做すことなかれ》と前置をして香港相場を詳述。〔ここでいう本社とは、三井物産会社のこと。この時代の『中外物価新報』は、三井物産会社の一部局が発行していた。〕
77 c	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第52～第56 52 金漆画の書櫃衣厨の扉を製造して輸出を興すべき事/53 剪綵花輸出の事/54 西京府に於て欧州縁飾の製造緊要なる事/55 友禅会社友禅染の評 西村惣右衛門/56 製造物を精良にするは工人をして一器の製造を守らしむ可き事。
77 d	「倫敦米商仲買フラッセル社中報告」 英国から欧州及米国への米の輸出額。〔4面掲載〕
78 a	【バリへの輸出手続】 本社〔三井物産会社〕バリ支店委員よりの通信。
78 b	【香港米相場】 気配不変で落ち着いている。
78 c	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第57～第61 57 売買上の物品利益を計らず却って有益の効驗ある事/58 伊勢参社/59 日本国内地人民幸福ある事/60 勢州壺屋紙/61 万古陶器。
79 b	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第62～第65 62 愛知県豊助焼及び七宝焼/63 瀬戸陶器/64 美濃陶器/65 殿堂建築の評論。
80 b	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第66～第68 66 静岡嵌木工の評/67 各地の陶山に於て花瓶製造を廃す可き事/68 野州日光山の建築。
81 b	「英国ドクトルドレッセル同行報告」第69～第70 69 学生を倫敦に派出して商業を学ばしむ可き事/70 日本物産輸出上の概論/（大尾）。
82 b	【イタリア蚕種商況】 ローマ在留某よりの通信抄出。
83 a	【米国の生糸輸入関税賦課論議に決着】 紐育2月21日発通信から抄訳。米国の海関税則改正案から生糸輸入関税の条が撤回されたことを報道。
83 b	【小麦の輸出】 横浜の「支那商人」が小麦を買込み香港等へ輸出しているので、現地相場を探訪。
83 c	【横浜貿易の衰微】 英魯関係が切迫しており、その成行き眺めて取引が低

第2表 記事の内容 (その10)

号数	内 容
	調になっている。
83 d	【米国船運賃の高値】 英魯関係切迫により英国船が危険視され、米国船の運賃が高値になっている。
84 a	【兵庫・神戸・大阪の商況】 本社〔三井物産会社〕社員京撰間に在る者よりの商況筆記を掲載。
84 b	「米国紐育通信」3月8日発 生糸と茶の景況。
84 c	【フランスにおける生糸景況】 2月22日巴里発通信。
86 a	【支那茶粗悪に赴く】 勸商局雑報が掲載した「倫敦刊行英国商事雑報中支那茶粗悪に赴くの一説」抄訳を転載。
86 b	【香港米相場騰貴】 広東地方の台風による損害で相場が騰貴。
86 c	【米の輸出高】 昨年6月～本年3月までの日本からの米の輸出高を報道。
87 a	【親船の船頭】 親船の船頭は、運漕・売買・荷為替資金の三業を兼ねて営業し、また危険を恐れない胆力を有し、日本の遠隔地間交易を担ってきた。彼らを《我が国真の商人たり又開明の率先者たりと称して其功勞を賛美するも敢て好事の言にあらずと信ず》。こうした有能な航海者を鼓舞し海外への我国商船の進出をはかることを望む。
87 b	【電信略号の使用】 電信料字数計算方法の変更とそれに伴う住所姓名等での略号使用の許可。
88	【野蒜築港計画】 宮城県野蒜における築港計画を紹介。
89	【野蒜築港計画】(続き) 同港築港による経済効果を解説。同地の凶面を掲載。〔『中外物価新報』初の凶面掲載。〕
90 a	【新潟港修築計画】 新潟港修築計画とその効用を紹介。凶面つき。
90 b	「洋銀」 新架坡タイムス抄訳。ペナンにおける、日本の新貿易銀に対する評価。〔4面掲載〕
91 a	【蚕種製造売買の自由化】 《政府は第十号布告を以て明治七年(二月)第十九号布告蚕種原紙規則、同八年(三月)第四十七号同十年(四月)第三十九号右規則中改正布告及同八年(二月)第三十二号布告蚕種製造組合条例并蚕種製造組合同議局規則、同年(四月)第六十五号条例追加、同十年(五月)第四十二号初度夏蚕種製造方布告共悉皆廃止せられたり是に於て蚕種は多年の束縛を免かれ復び自由製造自由売買の域に生出せり》と報じ、蚕種製造売買の自由化実現に賛意を表明。
91 b	【阿賀川・新潟運河】 新潟港改修工事竣工後に阿賀川(阿賀野川)末流と

第2表 記事の内容 (その11)

号数	内 容
	新潟を運河で結ぶ計画がある模様と報道。
91 c	【最近の米価騰貴】 米価騰貴の原因を高値見込の売惜しみによるものと分析。
92	「記憶を善くせざれば敏捷の商売を為す能はず」 幼年子弟に与える助言。
93	【海上船舶保険会社と造船資本の融通】 海上船舶保険会社を創立し、造船資本の融通（船舶建造への投資）を促し、在来日本船の外国形風帆船への代替を促進すべしと主張。
94 a	【内国製品の使用】 いたずらな舶来品珍重を排し、実用上優劣無きものについては内国製品を使用して工業者を奨励すべきことを主張。
94 b	「倫敦米商報告」3月14日 近年の相場と本年の見通し。〔4面掲載〕
95 a	【東京株式取引所】 去る15日に大蔵省の允准を得て、近日開業予定の東京株式取引所の業務を紹介し、その開業の意義を説く。
96 a	【公債・株式の利子歩合】 現在市中で売買されている三種の公債証書と第一国立銀行株式の平均利子歩合を計算。併せて各証書・株式の特徴を紹介。〔前号の東京株式取引所開設に関する所見の付録的記事〕
96 b	【商業学校の設立】 適切な商業学校の設立が急務であることを主張。
97 a	「貨幣の変革」 貿易銀通用改正の布告（布告第十二号及第十三号、5月27日付）について《我政府の目的は名は兩本位と雖も其実は銀幣主義に変換せりと謂はざるべからず》と分析。その上で、我が貿易銀の流通を盛んにし、内地各開市場から洋銀を排黜するはもとより、アジア各地での貿易通貨へと成長させるべきことを主張。
97 b	【上海の石炭景況】 上海よりの通信。
98 a	「日本茶の景況」 日本茶が、茶質低下と価格下落の悪循環に陥り、衰退に向っていることを指摘。《宇治製茶は已に如此極度の衰頹に傾き最早今日にして之を恢復せんことは実に至難中の至難と云ふに及べり》との認識を示し、むしろ《新製紅茶》の製造に今後の活路を見いだすべきであろうと提案。
98 b	【支那の養蚕景況】 上海よりの電報によると《本年該地の養蚕は甚だ不作》とのことであるが、《不作を唱へて価格の騰貴を謀ること彼の慣手の策にして》実否は保証し難い。《尚ほ実地を探偵して報道すべし》。
98 d	「一八七七年商況略説」 3月9日発兌エコノミスト新聞抄訳。〔4面掲載〕
99	【貨幣の変革再論】 郵便報知新聞がその紙上において、貿易銀通用改正の布告について論評している〔6月3日、4日両号の社説「貿易銀ラシテー一般二通用

第2表 記事の内容 (その12)

号数	内 容
	セシムルノ布令」)。貿易銀通用改正を《洋銀を追討するの目的》と見る点では意見が一致するが、報知記者が《金銀両本位にあらざる理由を述べ暗に吾輩の前論を排撃せられた》ことには《大に所見の差異あるを以て前論を保持せん為め茲に一言を陳て報知記者に呈し且他に所見を陳述せんと欲す》。
100 a	【我国製糸の進歩／本年内外の蚕況】 明治9年、10年の製糸業の景況回顧と本年内外の蚕況（岩代・上州・信州・欧州）。
100 b	【支那の米況】 香港よりの通信。
100 c	【輸出米高】 《当一月より五月三十一日迄横浜神戸長崎新潟及び不開港場（政府）より海外へ輸出せし米の高》は42万5千石余となった。
101	【貨幣の変革再々論】 報知新聞・東京日日新聞・ジャバントイムスなどの論調、すなわち、洋銀に比し4グリーン重い420グREENの重量がある貿易銀が、洋銀に対抗して広く東洋に流通することは困難であるから、洋銀にあわせて416グリーンに減量すべきとする説を批判。
102 a	「社会信憑の顕徴」 4月30日に公布され募集が開始された政府の起業公債に40日余りで650万円余の応募があったことを紹介しての論評。《吾輩は此回の起業公債募集の成跡に就て大に無形信憑の進捗するを觀て将来為すあるの徴を發見せり》。《銀行に委託して公然と国内に募り通貨を政府に借入るの挙は今回を以て嚆矢と》するが、《数百万の金円は内国にて募集すること容易ならず必ず外国に仰がざるを得ざるべしと思惟せしは恐らくは吾輩のみに止らず誰も皆然りしならん況んや千万円以上の巨額に至りては到底内地に望むべからずとせしに社会の氣運は漸く進み無形の信憑も稍定る所ありて国家に鴻業の起さざるべからざるを知り政府の措置に過ちなきと両銀行の着実堅固なるを信じ一般の人情余裕の資財を空しく貯蔵するを快しとせざるに至りしを以て斯く続々と募に応じ吾輩思惟の外に出たるは喜ぶ可きの至りなり既に社会の信憑は是までに進みたり其信憑を負ふものは宜しく勉めずんばあるべからず》。
103 b	【北越地方の米穀景況】 《北越より帰京せし社員に該地米穀の景況を聞く》。
103 c	【イタリアにおける日本産蚕種紙の景況】 4月24日付伊国通信（横浜ヘラルド新聞抄訳）。
104 b	【上州における養蚕景況】 上州よりの通信。
105 a	【蚕種製造売買の自由化・再論】 ジャバントイムスが、本紙91号論説【蚕種製造売買の自由化】を訳出掲載のうえで、蚕種の輸出を規制して生糸輸出増進を図るべしとの主張を展開しているが、これは空論に過ぎないと批判。
105 b	【筑後肥前の米況など】 17日発の筑後若津通信。

第2表 記事の内容 (その13)

号数	内 容
105 c	【本年の生糸景況】 6月21日刊行ヘラルド新聞抄訳ならびに《今日欧州ヨリ到着シタル……私報電信ノ写》。〔4面掲載〕
106	「国立銀行」 国立銀行経営者への期待 ①国立銀行間での競争が次第に激しくなつて来ている。それによつて、荷爲替取組みや物品抵当貸等の物品と財本とを結び付ける営業が盛んになることが期待できる。一方で、《競争の熱心より知らず識らず自重の思慮を欠き危険を冒し失敗を招く》危険も増して来る。ことに、徒な利益を追うあまりの投機の失敗や、杜撰な経営による損失などがないように、銀行経営者には十分な注意を願いたい。②銀行経営者には《金と銀との価格貿易の権衡等に注目して貨幣を運転し其供需を平均せしむる等のことを実践し得る》《実行の理財家》となつて欲しい。こうした人材の欠如により、開港から《今日に至るまで我国幾多の損失を為せしか量る可からず》。
107 a	【商業の進路】 我国商業上の維新以来の変革・変遷を回顧し、今後の進むべき道を語る。ことに問屋卸商人の営業を改革すべきこと。
107 b	【支那の新糸市況】 《上海刊行申報抜訳 明治十一年六月十日》。〔4面掲載〕
108 a	【少年子弟の心得るべき要件】 《吾輩曾て商人は記憶を善くするの肝要なることを述べしが尚此他決断秘密丁寧と労役を厭はざる等は少年子弟の心得であるべき要件なるを以て之を雜記して今日の紙上に填せんと欲す》。
108 b	【福島近辺養蚕の景況】 《岩代福島本月一日出の通信に曰く》。
108 c	「紐育生糸商況報告訳」 5月24日発。〔4面掲載〕
109	【米価の騰貴】 東京・神奈川の虫害情報に発して米価が騰貴しているが、虫害の実態は軽微で収穫に大きな影響が出る模様ではない。また、現在各地の貯蔵米も不足してはおらず、香港市場の日本米価格も下落しており輸出がなされる情勢ではない。《斯く列序すれば独り東京のみ昂貴すべき由縁なきは明瞭なるべし》と結論し、投機者の術策にはめられぬようにと警告。
110	【イタリアにおける蚕紙・養蚕の景況】 《伊太里国ミラン府より五月四日付の通信ありたるを以て之を抜粹して本日の紙上に掲載す》。
111	【商法会議所】 《商法会議所設立の事は兼て新聞紙上にも記載ありしが遠からずして愈々開設の手順にも運ぶべき由に聞及びたり然而して商法会議所なるものは嘗て我国に於て設立ありしを聞かざるを以て此会議所は何事を議する処なるか其目的は何にあるか將た其経費は何処より出るものなるか今其概略を記し併せて一二の意見を述ぶるも敢て無益にあらざるべし》。
113 a	【支那要地の商業事情】 《近日或紳士の支那地方上海、鎮江、九江、漢

第2表 記事の内容 (その14)

号数	内 容
	口、武昌、寧波、広東、及香港、等該邦商業の要地を巡回し帰朝あり親しく各地の商況を伝承せし中我が商估の大いに注意を要すべきものあるを以て今其概略を臆記して読者諸君の感觸を喚起せんとす》。
115 a	【上海の錢莊】 《上海に於て錢莊と稱するものは我が銀行の性質と畧相等けれども實際は緩急難易の差あり今其詳細を知らんと欲するも交誼日浅く素より其蘊奥を尽す能はず聊か見聞に觸るる所を叙記して以て其一斑を報道す》。
115 b	【東京商法會議所の議事掲載告知】 東京商法會議所が近日中に開場する。今後會議ごとにその議事を傍聴し要件を本新報上に掲載することとする。
116 a	【本年6月各港輸出入表】 本年6月各港輸出入表の概要を紹介し、見解を付す。
116 b	【東京商法會議所、第一集會を開催】 8月1日、三井銀行樓上にて開催。全會員51名の氏名を列挙。
116 c	【東京商法會議所要件録 第一總會】 8月1日開催。理事・各委員等の選挙。〔2面に独立の欄を設けて掲載。以後も同様。〕
118 a	【イタリアにおける養蚕の景況】 《伊太利在留某より六月十日出の書信中該地養蚕の景況を詳悉し内地養蚕家の為裨益少なしとせず因て抄録して該業関係諸君の参考に供す》。
119 a	【ヲマツリの勧め】 古道具屋・古着屋などがおこなうヲマツリという商慣習がある。これを対外国商人輸入取引に応用してはどうか。すなわち《外国商人の舶齎する物品の如き一時多数の輸入するとき該品を扱ふ商人一同協議して全数を一手に買切り而して銘々の需用者より注文を受けし高或は売却見込のある丈を入札して引取ること》としてはどうか。こうした方法なども利用して、日本の商人は集合力を高めて、外国人商人との取引にあたる必要がある。
119 b	【漢口の茶商況】 《在上海の外国人某より漢口茶商況の報告書を得たれば訳出して左に掲載す》。
121 a	【名はなくして保険会社の実を行なうものあり】 《我が新報第九十三号に於て海運船舶の改良を論じ其障碍と成るものは保險会社の立たざるを以て資本の流通なきに因るとして早く一大会社を創立して海上船舶の保險を任せんことを冀望したりき。然るに近今聞く所に拠れば近年一種の慣法起りて名はなくして保險会社の実を行なうものありと今其詳細を陳述するに当り先づ其起業者の性質を叙記するは最も緊要のことと信ず》として、府下に《九店と稱するもの》があり、この《九店二百有余の商人集合協力》により船舶建造が行われていることを紹介。九店とは油、砂糖、菜種、木綿、畳表、藍玉、紙、蠟、傘の九業種の問屋の組織。

第2表 記事の内容 (その15)

号数	内 容
121 b	【商船の改良法】 《ジャパントイムス新聞に我が商船の改良法論を論ぜり吾輩も亦言はんとするものあるを以て今其大意を抄録す》。
121 c	【近畿の米作況】 8月17日付大坂出状。
122 a	【支那における石炭開鑿】 《支那内地に於て石炭開鑿の論あることは屢々我が新報紙上にも説きしことありしが今勸商雜報中清国開平鉱務局起見書と題せる一章あり之我邦貿易上大なる関係あるを以て茲に騰載して該雜報を見ざる諸君に報ず》。
122 b	【竹橋砲兵營所の騒乱】 23日午後11時頃、竹橋砲兵營所内で出火・号砲・小銃乱発が発生。騒乱はすぐに鎮圧されが、その影響で内国電信私通差し止めにより各地電報を得ることができなかつた。
123 a	【イタリアの養蚕景況】 《伊国在留某より該地養蚕景況の報告を得たれば左に掲ぐ但し去る六月二十八日出なり》。
123 b	【フランスにおける日本提系の景況】 《仏国在留の社員より日本提系の景況を報道せり》。
123 c	【岩代福島島の米作況】 《岩代福島島本月二十二日出の通信に曰く》。
123 d	【羽後土崎秋田能代米作況】 《羽後土崎秋田能代辺を巡遊して本日帰京せし社友に該地稲田の景況を聞く》。
124	「各国綿の進歩」 世界各国の綿と綿製品の産出概略。
125 a	【貫々料の廃止】 《横浜輸入物引取屋の人々集合協議して此貫々料を断然排却停止するの企》があることを報じ、これを《飽まで声援して全く此弊風の跡を横浜に絶たんことを冀望す》る立場から、廃止に逡巡する向きを牽制。ジャパンメール紙でさえ貫々料廃止に賛意を表していることを同紙抄訳を掲載して紹介。
125 b	【運賃の高下】 神戸より香港へ輸出された米が、香港相場の下落と空船の低廉な運賃を勘案して横浜に回送され深川へ蔵入れ中であることを紹介し、運賃の高下を巧みに商売に利用すべきことを説く。
126 a	「貫々料の廃止」 《前号に於てジャパンメール記者が商館番頭の弊事を駁論せしものを抄訳して騰載せしを以て読者は既に其意を了知せられしならん今や吾輩は番頭社会の実況を撰写して之を引証に充て且数年憂慮せし所を吐露してジャパンメール記者を翼賛し諸商売の奮起して此弊風を釐草せんことを欲す》。
126 b	「東京商法会議所要件録 第二臨時会」 9月4日開催。規則・議事規則の審議。

第2表 記事の内容 (その16)

号数	内 容
127 b	【金録公債証書の取引開始】 《金録公債証書書入質入売買不苦旨公布ありしに由り株式取引所にては本日より売買を免会せり》。
128 a	【金録公債の売買開始に寄せて】 金録公債証書書入質入売買不苦旨公布によって、金録公債証書は純然たる所有者の財産として売買されることとなり、その所有者は一変することとならざるを得ないであろうと指摘。その上で、《各銀行及び有名な諸会社》が《所謂蒐集の資本にして世の商売工業百般をして便利を得さしむるの流通金》《を以て争ふて公債証書を買収するに至らば取りも直さず商売工業等の流通資本をして世上を退去せしむるがに如し之を細言すれば財本中最大切なる通貨にして且大に蒐集蓄積し得て將に生産事業に流通せんとするものを細分散布して空しく消費せしむるものなり》と懸念を表明。
129 a	「殖産資金」 工業化資金として外資を導入すべきことを主張。金録公債証書書入質入売買解禁の影響が早くも出て、銀行等の資金の飛散が始まっている状況を、《我が同胞の甚だ不慣手なる資力集合の一項纒かに近年進捗の状勢を現はし將に其功を実地に試みんとするの秋に方り何ぞ凶らん最も通貨を飛散せしむる物品一億有余万の巨額を頃刻に現出し来らんとは》と慨嘆。飛散した通貨もいずればまた集合するであろうとの議論を、《工業を起し物産を殖するは実に焦眉の急務》である現状を理解しない愚論であると切捨てる。工業を起し物産を殖するに重要な三要素のうち、知力・労力はすでにある、《唯金力に至りては常に憂とする所にして吾輩大いに企望せし集合の資力は業に已に飛散せり今の時に当り一大英断の所置に出ず因循姑息荏苒経過せば益々精血衰耗し終に起つ能はざるに至らん。何をか一大英断の所置と云ふ日外国人をして我工業資本の募集に応せしむべし》。
130 a	【フランスの関税】 フランス、パリの社員及社友寄書より抄録。日本からの輸出品には、ナポレオン時代に《保護主義を以て制定》せられたる《普通法》の関税が適用されており甚だ不利であること。
130 c	【第一国立銀行等の株式売買】 22日に、東京株式取引所で、第一国立銀行・両米商会所・株式取引所の株式売買が初めて行なわれた。
131 a	「殖産資金」(続き) 日本には確かに天与の富があるが《今日の状態に安んじ荏苒空過せば各国富強を競ふの秋着々と外国に先ぜられ竟に固有の富も富たるの実を失う》ことになると、「支那」における石炭開発の動きの事例をあげて警告。外国資本を導入して事業を起し、そこに加わって経験を積む日本人が生まれ、またそれらの事業で実益があがることを目の当りにすれば、日本人の中からも事業を起そうとする人々が生まれ、資本も集合してくるであろうと主張。
131 b	「東京商法会議所要件録 第三臨時会」 9月12日開催。議事規則の審議。

第2表 記事の内容 (その17)

号数	内 容
132 a	「殖産資金」(続き) 前段において、外国資本を導入して工業を起した場合日本の富が外国人の有となり国益にはならないとする議論を反駁。後段で、条約改正交渉で治外法権撤廃が実現しなかった場合に外資導入実現のために取るべき方策を提言。
133 a	【使用人褒状制度の勧め】 従来の商家における丁稚子供から手代番頭へと至る奉公制度が今日では成立たなくなりつつある。一方、新しく創立される会社商會では月給制で、習熟した手代番頭を雇い入れるが、雇い入れられた者が現在にのみ目を向けるきらいがあり、移動も激しく、主人と手代番頭間での信憑が地を払うに至っている。今日のように変化の激しい時代においては生涯の傭使は不可能であるから、こうした弊害を矯正するために、西洋諸国において広く行われている褒状の制度を導入してはどうだろうかと提案。
134 a	「悉徳尼(シドニー)府略記」 《来明治十二年英領豪州悉徳尼府に於て万国大博覧會を開く由は既に諸新聞紙上に於て世人の知る所なり今仏人「モントヒオル」氏の該地の実記を得たれば其大概を抄訳し通商家の参考に供す》。
134 b	「東京商法會議所要件録 第一定式集會」 9月19日開催。《仏国特別税目条約二加入ノ義二付建議》ほか。
135 a	【明治十年各港輸出入年表の分析】 関稅局編纂の明治十年七月より明治十一年六月各港輸出入年表への論評。①米の輸出が巨額にのぼった。《我が日本米の該年度に至り俄然如此大数を輸出したるは何等の原因あり且何国の需用に供せしかを詳明し将来此舉を継続し得べきや否を觀察するは寔に緊要の一事項たり》。②輸出入表に現れる數値よりも實際の貿易額の方が大きく、かつその乖離の割合は輸入品の方に大きい。さらに輸出入表には記載されない《外国債の利息公使領事館の費及留學生の學費等》を加えると、海外に流出する金額は《非常の巨額と云ふべし洋銀の騰貴する金貨の減却する亦宜ならずや》。
135 b	「東京商法會議所要件録」 9月24日開催。《各課委員調查事務議定ノ為メニ此會ヲ開ク》。
136 a	【明治十年各港輸出入年表の分析】(続き) 米輸出増加についての詳論。
136 b	「東京商法會議所要件録 第二定式集會」 10月4日開催。《議員出金ノ義二付建議》ほか。
137	【欧州における養蚕收穫の景況】 横浜に入荷した蚕種については《未だ確と相場も立たず双方白眼合の景況なり》。《此成敗は内地製造の多寡と欧州養蚕の豊凶に拠るものなり》《今仏伊其他養蚕收穫の詳細を得たれば其要領を抜萃摘訳して以て該業者の彼を知り己を知るの一助に供せんとす》。
138 a	「銀行と商売と相待て商事を經營するは何の時に在る乎」 銀行の設立は増

第2表 記事の内容 (その18)

号数	内 容
	<p>えたが《銀行の本務を営み商売と密接するものは百中僅かに二三の指を屈するに過ぎ》ざる現状である。我国で商業を営む者に、金融を受けて商売をする慣習がなかったこともその一因であろうと指摘。銀行側について見れば、一部で《生系の産地に人出し為荷換等を為す者》が現れたのでひそかに期待をしたが、《近日聞くところによれば金録公債証書売買の禁を解かれし以来流通資本の方向は頓に一転し各銀行者を始め少しく資力のあるものは靡然として公債証書の買収に傾倒し復た生系の為荷換を顧るものなきに至れりと》、と嘆く。</p>
139 a	<p>【天津商業案内】 《近頃社員の支那天津に至り実況を目撃して報告せしものあり抜粋して以て該地商業に志ある諸君の参考に供す》。</p>
140 b	<p>【為替相場の変動】 横浜倫敦間為替相場が《近頃非常に変動し七月中に比較すれば二片余の騰貴なり》。この変動の原因は、①グラスゴー銀行閉店による信用不安、②英国とアフガニスタンとの間での紛争発生にある、と言われていたようであると報ずる。</p>
141 a	<p>【洋銀相場の混乱】 横浜洋銀相場の高騰が止まるところを知らずついに相場所が閉鎖された。《洋銀の交換は全く相対取引と成りしを以て引取屋は休業同様の姿となり市場の景況殆ど五里霧中に坐するが如》し。《二十七日に至り俄然気配を変じ》下落に向ったが、相場所は開設しておらず、様々な思惑が入乱れ大変混乱した状況である。《偶々在横浜某より其筋へ通報せしものの写しを得たれば左に掲げて参観に供す》。</p>
141 b	<p>【陸奥三本木の養蚕】 岩代福島よりの通信。陸奥三本木では本格的な養蚕は未だ行われていないが、周辺に優秀な天然桑の繁茂する地域があり、この桑を用いて養蚕を起せば巨額の産出が可能であると思われる。</p>
142	<p>「日本殖産の現状」 新報紙上での外資移入論が引金となり、それを支持する朝野・日報と反対する報知・曙・毎日との間で論戦となっている。そこで《吾輩今故らに現時日本殖産の形状を探求して茲に提出するものは我国富強を起すは外国資本を移入するに在る乎將た外国資本を移入せず依然今日の形状に安んずるも他に天賦の富を起すの術ある乎を研究するの一助に供し併せて論ずる処あらんとす》。第1回として農産について。</p>
143	<p>「日本殖産の現状」(続き) 礪産・製作について。</p>
144	<p>「日本殖産の現状」(続き) 海産・運輸について。</p>
145	<p>【外資移入の問題】 ①《内国の殖産は速かに振起せざれば終に自滅を取る所以に論及》。印度や「支那」、とりわけ「支那」が日本に先んじて工業化に成功することとなれば、日本は「支那」製品の市場とならざるを得ないであろう。②《政府直接の保護は殖産進歩の良法にあらずして適以て人民の奮志を阻</p>

第2表 記事の内容 (その19)

号数	内 容
	害するに足らん》。《政府は港口道路の開鑿郵便電信の増線航路灯台の建設等を皇張し人民の事業を便利ならしむる間接の保護を専担すべ》し。かくして《漸進を期すべからず政府の挙行も亦望むべからず然らば則ち今日迅速に我が殖産の途を講ずるもの將安求焉》。
146 a	【米価騰貴の理由】 米価騰貴の理由を《收穫の期遅延して一般新米の回回り後れ又有力者の貯蔵にて東京市上の有米を減せしゆへ騰貴を起し其騰貴に因て各地の買人其土地の相場を昂け其土地の相場又東京に及ぼしたるもの》と分析。新米が出盛りとなり、東京への入津が進めば《必ずや今日に反対の下落に至らん》と予測。
146 b	「東京商法会議所要件録 第三定式集会」 11月14日開催。《紙幣ノ相場下落ニ付救済ノ議》ほか。
147 a	【米の輸出増進策】 《我が米の産出を増し及び輸出を誘導奨励するの方略》として、農家手取りを増やすために、内国の運送費の低減に務めるべきこと、より望ましいのは《不開港場直輸出か或は各地便宜の港口を以て開港場と為すに在り》と提言。
147 b	「東京商法会議所要件録 第三定式集会」(続き) 《旧金銀貨幣取扱規則更正ノ議》ほか。
148	【我が銀行者の形状に就て】 《日に月に増加する許多の銀行中に就き銀行の本務を営み世上の殖産及商業に便利を与ふるもの幾許ありや僅に五指を屈するも足らざるべし》と現状を捉え、多くの銀行は公債証券の売買を専らにして資産家が利益をあげるための手段となっていると批判。
149	【商標条例について】 28日に東京商法会議所において商標条例下問の臨時会議が開催されたことを報じ、商標条例について解説。
150	【洋銀騰貴について】 東京商法会議所において洋銀騰貴についての討議がなされるにあたって、「洋銀騰貴」と「洋銀昂低の非常な変化」とを峻別すべきことを指摘。《吾輩の嘗て憂ふる所は洋銀昂低の変化にありて今日の騰貴にあらず》。輸出入の不均衡を反映した洋銀の騰貴は当然のものであり、輸出は有利となり、輸入品の価格上昇が内地の代替物品を起すことにつながる。《今日の洋銀騰貴は自然の保護法と云ふべし》。《之に反して吾輩の切に憂ふる所のものは洋銀相場の昂低変化の非常なるに在り》。これは《貿易上の一大妨害にして我が商人のみならず外国商人も亦大いに其損害を蒙るものなり》。
151 b	「東京商法会議所要件録 第三臨時会」 11月28日開催。下問された商標条例法案に関する審議。
152 a	【貸倉会社について】 商業振興のためには、物品抵当貸出を促進する必要

第2表 記事の内容 (その20)

号数	内 容
	があるが、現在のところ《物品に信用を保すべき途なき》ことがそれを阻む一因となっている。そこで、物品の保管と同時に、物品を鑑別し銀行が抵当として受入れるような預り券を発行する貸倉会社の設立を提案。
153 a	【益田孝・横浜生糸貿易報告】 《去る十一月十四日東京商法会議所に於て外国貿易事務委員益田孝君の演説せられし横浜生糸貿易の報告を得たれば左に掲ぐ》。
153 c	【米国南部での養蚕業】 アメリカン・エクスポート・トレード新聞誌。〔4面掲載〕
155 a	「読報知新聞」 米価騰貴の原因をめぐり、郵便報知の犬養毅・田口卯吉に対し反論。東京商法会議所（12月5日）において内国商業調査委員・益田孝がおこなった米価騰貴の原因に関する報告を東京日日新聞が詳報。それに対して郵便報知新聞紙上で、犬養（16日社説）、田口（18日、19日社説）が批判を加えた。
155 c	【石炭油積載船の到着】 紐育より石炭油6万3千箱を積み込んだシェンベラル号がシンガポールを出港。21日頃に横浜へ到着予定。ジャパン・ヘラルド抄訳。〔4面掲載〕
156 a	【益田孝・横浜生糸貿易報告】（続き） 報告末尾で《三井物産会社社員の織物に従事する伊達忠七なるものこの度欧州各邦にて目撃せし状況を本社へ報道せしものあり聊か見るべきものあるを以て併せてここに報告す》。

- 注) 1. 〈 〉は記事からの引用を、[ ]は作成者による注記をしめす。  
 2. 表記は、原文を尊重したが、用字は通用の字体に換えたところもある。